

有明海再生赤潮モニタリング委託事業

夏季の有明海湾奥西部海域における植物プランクトンの出現状況のモニタリング

太田洋志・岩永卓也・中原啓太・野口浩介

有明海における貧酸素水塊の消長シナリオの構築及び貧酸素水塊の発生予察手法の検討に資するために、夏季の有明海湾奥西部海域における植物プランクトンの出現状況のモニタリングを行った。なお、本課題の詳細については、「令和4年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発 (3)貧酸素水塊の予察技術、被害軽減手法の開発報告書」で報告した。

方法

図1に示すSt.T2, T13, P6, P1およびB3の計5定点において、2022年7月7日から9月25日にかけて計8回の調査を実施した。調査項目は、表層における植物プランクトンの細胞密度とした。

結果

各定点における*Chattonella*属、珪藻類および渦鞭毛藻類の細胞密度の推移をそれぞれ図2、図3および図4に示した。

*Chattonella*属は、7月上旬と8月上旬の2回のブルームが確認された。それぞれのブルームにおける最高細胞密度は、最初のブルームが1,240cells/mL、2回目のブルームが458cells/mLであった(図2)。

珪藻類の細胞密度は、8月4日のSt.T2、8月23日のSt.T13、P1およびP6、9月25日のSt.B3で3,238～6,324cells/mLと比較的高密度であった(図3)。

渦鞭毛藻類の細胞密度は、7月7日のSt.P6、7月14日のSt.T2、T13およびP6、7月20日のSt.T13、8月4日のSt.P1、8月11日のSt.P6で146～558cells/mLと比較的高密度であった(図4)。

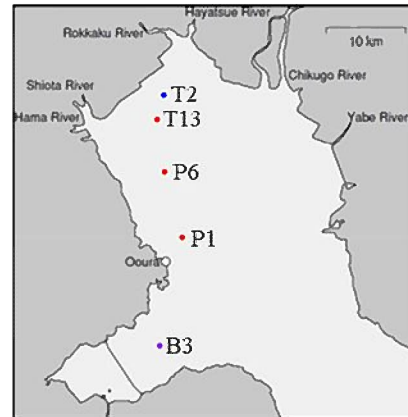


図1 観測地点

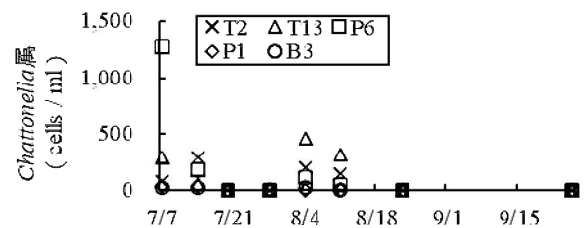


図2 各定点における*Chattonella*属の細胞密度の推移

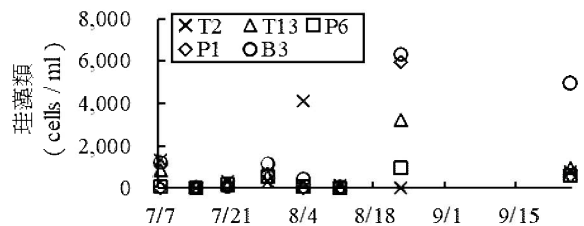


図3 各定点における珪藻類の細胞密度の推移

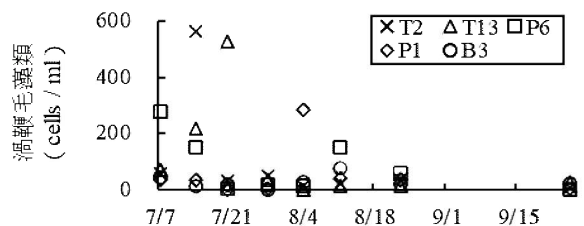


図4 各定点における渦鞭毛藻類の細胞密度の推移